

令和5年度経営協議会における審議事項

開催日	審 議 事 項 等
(第100回) 書面審議 5月29日(月)	1. 審議事項 (1) 令和6年度施設整備費概算要求(案)について
(第101回) 6月16日(金)	1. 審議事項 (1) 令和4事業年度決算(案)について (2) 令和6年度概算要求事項(案)について (3) 学長選考・監察会議委員の選出について 2. 討議・意見交換事項 (1) 医学部附属病院の経営状況等について 3. 報告・連絡・情報交換事項 (1) 福大ビジョン2040の見直しについて (2) 令和4年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について (3) 令和5年度入学者状況について (4) 令和4年度卒業生・修了生の進路状況について (5) 令和5年度会計監査人の選任について (6) 令和4年度資金運用に係る報告について (7) 令和4年度ガバナンス・コード報告書の作成について 4. その他 (1) 本学の取組みに関する最近の記事について (2) 第18回日本工学アカデミー(EAJ)中部レクチャーについて
(第102回) 10月18日(水)	1. 審議事項 (1) 国立大学法人福井大学ガバナンス・コードの公表について (2) 福井大学大学院学則の一部改正等(案)について (3) 福井大学ダイバーシティ推進センターの設置(案)について (4) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正(案)について 2. 討議・意見交換事項 (1) 医学部附属病院の経営状況等について 3. 報告・連絡・情報交換事項 (1) 令和5年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価結果について (2) 令和5年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価結果について (3) 中京圏からの進学者の傾向について (4) 大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科の改組について 4. その他 (1) 本学の取組みに関する最近の記事について
(第103回) 書面審議 11月6日(月)	1. 審議事項 (1) 令和5年度福井大学収入支出予算の見直し及び繰越計画について(案)について (2) 国立大学法人福井大学役員給与規程の一部改正(案)について (3) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正(案)について
(第104回) 書面審議 1月19日(金)	1. 審議事項 (1) 福井大学共同研究取扱規則等の一部改正(案)について 2. 討議・意見交換事項

	<p>(1) 医学部附属病院の経営状況等について</p> <p>3. 報告・連絡・情報交換事項</p> <p>(1) 令和6年度政府予算案等内示の概要について</p> <p>(2) 令和5年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価結果（補刷）について</p>
<p>(第105回)</p> <p>書面審議</p> <p>3月6日(水)</p>	<p>1. 審議事項</p> <p>(1) 大学院医学系研究科博士前期課程看護学専攻及び博士後期課程看護学専攻の設置（案）について</p>
<p>(第106回)</p> <p>書面審議</p> <p>3月18日(月)</p>	<p>1. 審議事項</p> <p>(1) 福井大学グローバル・エンゲージメント推進本部の設置（案）について</p> <p>(2) 福井大学学則等の一部改正（案）について</p> <p>(3) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について</p> <p>(4) 福井大学外国人留学生規程の一部改正（案）について</p> <p>(5) 令和7年度施設整備費概算要求（案）について</p> <p>(6) 令和6年度学内予算配分（案）について</p> <p>(7) 令和6年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請（案）について</p> <p>(8) 令和4事業年度における余剰金の目的積立金化について</p> <p>2. 討議・意見交換事項</p> <p>(1) 医学部附属病院の経営状況等について</p> <p>3. 報告・連絡・情報交換事項</p> <p>(1) 令和6年度の運営体制について</p> <p>(2) 福井大学シニアフェロー制度実施規程の制定について</p> <p>(3) 福井大学キャンパスマスタープラン2024の策定について</p> <p>4. その他</p> <p>(1) 本学の取組みに関する最近の記事について</p>

第100回国立大学法人福井大学経営協議会書面審議議事要旨

発送 令和5年5月29日（月）

承認 令和5年6月2日（金）

（学外委員 9名） 荒瀬克己、伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、鈴木寛、
中村保博、藤林康久

（学内委員 7名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、花島信、大嶋勇成、永井二郎、内木宏延

審議事項

令和6年度施設整備費概算要求（案）について

資料に基づき、書面審議した結果、原案のとおり了承された。

第101回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和5年6月16日(月) 13:35～15:30

場 所 福井大学本部棟2階 会議室(文京キャンパス)

出席者(※はWebにて出席)

(学外委員 7名) 荒瀬克己[※]、伊藤正一[※]、川田達男、小松弥生、笹田昌孝[※]、
鈴木寛[※]、藤林康久[※]

(学内委員 6名) 上田孝典、安田年博、花島 信、大嶋勇成、永井二郎、内木宏延[※]
欠席者 江守康昌、中村保博、末信一朗、松木健一

陪席者 峠岡監事、佐野監事、澁谷教育学部長、岡崎国際地域学部長、月
原国際地域マネジメント研究科長、明石工学部長、窪田参与、及
び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。(定足数:委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条)

2. 第99回及び第100回会議議事要旨の確認について

学長から、第99回会議の議事要旨及び第100回会議(書面審議)議事要旨について確認があり、了承された。

3. 審議事項

(1) 令和4事業年度決算(案)について

理事(総務・財務担当)から、資料1に基づき、令和4事業年度決算(案)について説明があり、審議の結果、了承された。

(2) 令和6年度概算要求事項(案)について

理事(総務・財務担当)から、資料2に基づき、令和6年度概算要求事項(案)について説明後、副学長(国際担当)から、教育研究組織改革分の新規組織整備概要について説明があり、今後の修正等については学長に一任することです了承された。

—主な意見—

(○学外委員、□学内委員意見。以下同じ)

- 本事業で掲げているグローバル・リーダーの人材像について、自身の業務経験では、海外とのネットワークを持っている人材や、培った力を実践的に使える人材が必要である。
- 大学の学生に身に付けてほしい能力を想定して、人材像を設定した。社会での実務経験を積むことで強固なネットワークが出来上がっていくと思うが、学生自身の留学経験や留学生との交流を通じて、グローバルな繋がりが広がってい

くことを期待している。

- 現在、どのくらいの科目が英語で行われているのか。
 - 英語のみで行う専門科目は数百あるが、すべて留学生を対象としている。今回を契機として、日本人学生も一緒にこれらの科目を英語で学べるよう、変えていく予定である。

 - 教育委員会に在籍していた際、教員自身に海外とのネットワークや留学に関する知識が無いため、海外の大学に行きたいという高校生の希望に応えられないということがあった。福井大学の強みである教員養成課程において、学生が教員になったときに活かせる、国際的なスキルを磨いてあげられるとよい。

 - 留学生の定着には、居心地良く生活できることも重要であり、それには地域との協力が必要である。自治体に協力を求めている。
 - 福井県の施策として、留学生の受け入れ・定着及び多文化共生を目指して、様々な支援が行われている。また、自治体や企業、公民館等と協力したイベントに日本人学生と外国人留学生と一緒に参加することで、地域の方々の意識のグローバル化に貢献できると考えている。

 - 同窓会組織は、留学生の交流の場として非常に重要である。日本人の学生と留学生が、英語で授業を一緒に受けられる環境を作るのは、簡単なことではないが、私立大学では先行事例がある。
 - コロナ禍にオンラインで行ってきた同窓会での取組について、今年度から対面でのイベント実施を計画している。

 - グローバル・リーダー人材の育成と、地域に馴染んでいく人材を求めるという二つの目標を一つの枠に収めている印象を持つ。どちらかに絞るほうが良いのではないか。
 - あくまで（１）世界に通用する専門能力（２）グローバル・スキル（３）タフネスリーダーシップという３つの能力を有する人材育成を目指しており、これに付随して、地域との一体感や帰属意識の醸成を狙っている。
 - リーダーシップをとる人材はプロジェクト志向があるため、一つのプロジェクトに注力した後、それが完成するとその場から居なくなるという認識を持っている。地域への定着とはキャラクターが異なるのではないか。
- (3) 学長選考・監察会議委員の選出について
- 理事（総務・財務担当）から、資料3に基づき、学長選考・監察会議委員の選出方法について説明があり、荒瀬委員、伊藤委員、川田委員、小松委員、藤林委員の5名が選出された。

4. 討議事項

(1) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料4に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

- 資料42頁、4月速報版での月次損益報告書について、経常利益が目標値を下回っているが、大きなマイナス要因はあるのか。
- 4月にあったスタッフの異動により、一部診療科において手術の稼働等を制限した影響で稼働率が下がったことが大きな要因である。5月以降は、診療体制も安定しており、連休明けから手術件数も回復したため、稼働率の上昇を見込んでいる。また、「目の手術室」の稼働により枠が空いた既存の手術室の活動方針について、手術部会で議論を行い、手術件数を増やし、稼働率を上げることとした。

5. 報告事項

(1) 福大ビジョン2040の見直しについて

学長から、資料5に基づき、福大ビジョン2040の見直しについて報告があった。

(2) 令和4年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について

研究・地域連携推進部長から、資料6に基づき、令和4年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について報告があった。

(3) 令和5年度入学者状況について

理事（教育・評価担当）から、資料7に基づき、令和5年度入学者状況について報告があった。

—主な意見—

- 一般論として、入学希望者が減るのは良いことではない。人口の社会増・社会減が起こるタイミングとしては、18歳の大学進学時と22歳の就職時があり、この各段階の人口の動きをしっかりと把握した上で、県内出身者の適正な水準等について、整理した方が良い。
- 今回は、前回の経営協議会で質問のあった、県内高校から本学への入学者を増加させる取組について説明を行った。今後、出身地による就職地域への影響を分析しながら、多様性の観点も踏まえて、県内外出身者の適切な比率を検討していきたい。

(4) 令和4年度卒業生・修了生の進路状況について

理事（教育・評価担当）から、資料8に基づき、令和4年度卒業生・修了生の進路状況について報告があった。

—主な意見—

- 福井大学の卒業生が、必ずしも福井県内に就職しなければならないわけではなく、全国的あるいは国際的に活躍する人材を養成すべきである。就職に関しては、県内企業がいかに福井大学の学生にアプローチするかが重要であり、学生自身の希望を叶えてあげるため、福井県にも何かご対応いただくことはできないか。
- 福井県にある大学として、ある程度県からの要望に応じていくことも必要と考えている。例えば、東海地方出身の学生を育てて、県内に就職させることも非常に重要である。

(5) 令和5年度会計監査人の選任について

理事（総務・財務担当）から、資料9に基づき、令和5年度会計監査人の選任について報告があった。

(6) 令和4年度資金運用に係る報告について

財務部長から、資料10に基づき、令和4年度資金運用に係る報告について報告があった。

(7) 令和5年度ガバナンス・コード報告書の作成について

理事（総務・財務担当）から、資料11に基づき、令和5年度ガバナンス・コード報告書の作成について報告があった。

(8) 福井大学基金について

学長から、資料12に基づき、福井大学基金について報告があった。

(9) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料13の記事について、案内があった。

(10) 第18回日本工学アカデミー（EAJ）中部レクチャーについて

学長から、資料14に基づき、第18回日本工学アカデミー（EAJ）中部レクチャーについて案内があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、10月以降の開催日（10月18日、1月19日、3月18日）の案内があり、閉会した。

第102回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和5年10月18日(水) 13:30～15:15

場 所 福井大学本部棟2階 会議室(文京キャンパス)

出席者(※はWebにて出席)

(学外委員 6名) 荒瀬克己※、江守康昌、川田達男、小松弥生、鷺頭美央、
藤林康久

(学内委員 7名) 上田孝典、安田年博、末信一朗、花島 信、大嶋勇成、
永井二郎、内木宏延

欠席者 伊藤正一、笹田昌孝、鈴木寛、松木健一

陪席者 峠岡監事、佐野監事、澁谷教育学部長、藤枝医学部長、
明石工学部長、岡崎国際地域学部長、
月原国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、窪田参与
及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。(定足数:委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条)

2. 第101回会議議事要旨の確認について

学長から、第101回会議議事要旨について確認があり、了承された。

3. 審議事項

(1) 国立大学法人福井大学ガバナンス・コードの公表について

学長から、資料1に基づき、国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書について説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

(2) 福井大学大学院学則の一部改正等(案)について

理事(研究、産学・社会連携、ダイバーシティ担当)から工学研究科の機能強化について説明後、経営戦略課課長補佐から、資料2に基づき、福井大学大学院学則の一部改正等(案)について説明があり、審議の結果、了承された。

—主な意見—

(○学外委員、□学内委員意見。以下同じ)

○ 今回の入学定員30名の増加について、令和6年度は21名、残りは令和7年度に改正し最終的に30名になるのか。

□ その通り。令和6年度に知識社会基礎工学専攻を増員する理由は、知識社会基礎工学専攻の知識システム科学コース及び情報工学コースが高度情報専門人材育成の重点となるためである。また、現在、産業界やアカデミア等において、情報系の人材は重宝され獲得競争が起こっているため、段階的に整備を行う。

(3) 福井大学ダイバーシティ推進センターの設置（案）について

上田学長から、改組の主旨説明後、理事（研究，産学・社会連携，ダイバーシティ担当）から、資料3に基づき、福井大学ダイバーシティ推進センターの設置（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

—主な意見—

- 福井大学ダイバーシティ推進センターの人員は何人体制の組織になるのか。
- ダイバーシティ推進センターは、センター長、副センター長、教育研究評議会評議員及び部門選出等の教員を含めて全体で約7～8名の人員体制の予定である。

(4) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料4に基づき、国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

4. 討議事項

(1) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料5に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

5. 報告・連絡・情報交換事項

(1) 令和5年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価結果について

理事（教育，評価担当）から、資料6に基づき、令和5年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価結果について報告があった。

(2) 令和5年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価結果について

理事（教育，評価担当）から、資料7に基づき、令和5年度中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価結果について報告があった。

—主な意見—

- 自己点検・評価は非常に重要であるが、実際に評価することは難しい。どのようにシステムの的に評価しているのか。
- 本学では、はじめに担当部局が自己点検・評価シートを作成する。次に法人評価対応部会にて確認後、全学的に評価している。また、第4期から評価方法が見直され、「評価指標」の達成の有無を客観的なエビデンスで評価されることになり、自己点検・評価しやすくなった。

(3) 中京圏からの進学者の傾向について

理事（教育，評価担当）から、資料8に基づき、中京圏からの進学者の傾向について報告があった。

—主な意見—

- 東海出身の入学生の減少は、メリットとデメリットがあるが、県内企業にとっては福井県出身の学生が増えたことは大変良いことである。入学試験は学力のみの評価で可否を決めているのか。

- 個別試験は学力のみであるが、学校推薦型選抜の場合、志望理由書や面接等がある。
- 社会に出てからも学力は必要であるが、意欲がある人ほど大きく成長するため、そのバランスも考えてほしい。

(4) 大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科の改組について
経営戦略課課長補佐から、資料9に基づき、大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科の改組について報告があった。

(5) 令和5年度上半期資金運用に係る報告について
財務部長から、資料10に基づき、令和5年度資金運用について報告があった。

(6) 本学の取組みに関する最近の記事について
学長から、資料11の記事について、案内があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、次会開催日（1月19日（金））の案内があり、閉会した。

第103回国立大学法人福井大学経営協議会書面審議議事要旨

発送 令和5年11月 6日（月）

承認 令和5年11月13日（月）

（学外委員 9名） 荒瀬克己、伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、鈴木寛、藤林康久、鷲頭美央

（学内委員 7名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、花島信、大嶋勇成、永井二郎、内木宏延

審議事項

1. 令和5年度福井大学収入支出予算の見通し及び繰越計画（案）について
2. 国立大学法人福井大学役員給与規程の一部改正（案）について
3. 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について

資料に基づき、書面審議した結果、原案のとおり了承された。

第104回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和6年1月19日（金）13:30～14:40

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者（※はWebにて出席）

（学外委員 5名） 伊藤正一、川田達男、小松弥生、鈴木寛※、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島 信、大嶋勇成、
永井二郎、内木宏延

欠席者 荒瀬克己、江守康昌、笹田昌孝、鷲頭美央

陪席者 峠岡監事、佐野監事、藤枝医学部長、明石工学部長、
岡崎国際地域学部長、月原国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、
窪田参与及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

2. 本学のトピックスについて

議題に先立ち、学長から、席上配付資料に基づき以下の事項について報告があった。

- ・JST「共創の場形成支援プログラム」の採択について
- ・お茶の水女子大学との連携及び協力に関する協定の締結について
- ・福井大学工学部創立100周年について

3. 第102回及び第103回会議議事要旨の確認について

学長から、第102回会議議事要旨及び第103回会議（書面審議）議事要旨について確認があり、了承された。

4. 審議事項

（1）福井大学共同研究取扱規則等の一部改正（案）について

理事（研究、産学・社会連携、ダイバーシティ担当）から、資料1に基づき、福井大学共同研究取扱規則等の一部改正（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

—主な意見— （○学外委員、□学内委員意見。以下同じ）

- 受託研究と科研費の間接経費率は、どのくらい違うか。
- 受託研究は直接経費の30%を間接経費率としており、今回、共同研究の間接経費を30%に引き上げることで、受託研究と同じ間接経費率になる。また、「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の共通指標においては、30%に設定することが加点対象になっている。

5. 討議事項

（1）医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料2に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

- 卒後臨床研修医マッチング結果について、定員 44 名とマッチ者 8 名の差が非常に大きく、将来の医師不足に繋がると推測されるが、いかがか。
- 非常に重要な問題である。福井県出身の卒業生は引き続き附属病院に残ることが多いが、県外（都市部）出身学生の県内定着は、横や縦の繋がりが重要である。しかし、コロナ禍により、繋がりが非常に脆弱になったことで、今回の影響が出たと推測している。福井県も、県内の初期研修医数の減少を問題視しており、県全体で協力しながら、福井県で初期研修を受ける魅力を伝えていきたい。

6. 報告・連絡・情報交換事項

(1) 令和 6 年度政府予算案等内示の概要について

理事（総務・財務担当）から、資料 3 に基づき、令和 6 年度政府予算案等内示の概要について報告があった。

(2) 令和 5 年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価結果（補刷）について

理事（教育、評価担当）から、資料 4 に基づき、令和 5 年度教育研究活動等に係るデータ分析による自己点検・評価結果（補刷）について報告があった。

—主な意見—

- 研究業績等は各々の研究者の積み重ねにより、自ずと数値が上がると推測するが、ダイバーシティは、研究者や教員の努力ではなく、大学が組織として強力で押し進めることで達成されるものだと考える。

(3) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料 5 の記事について、案内があった。

7. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

また学長から、次期監事候補者選考委員について、本経営協議会の委員の中から選出したい旨発言があり、協議の結果、藤林委員及び小松委員が選出された。

8. 閉会

学長から謝辞が述べられ、次会開催日（3 月 18 日（月））の案内があり、閉会した。

第105回国立大学法人福井大学経営協議会書面審議議事要旨

発送 令和6年3月 6日（水）

承認 令和6年3月13日（水）

（学外委員 9名） 荒瀬克己、伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、鈴木寛、藤林康久、鷲頭美央

（学内委員 7名） 上田孝典、安田年博、末信一郎、花島信、大嶋勇成、永井二郎、内木宏延

審議事項

1. 大学院医学系研究科博士前期課程看護学専攻及び博士後期課程看護学専攻の設置（案）について

資料に基づき、書面審議した結果、原案のとおり了承された。

（主な意見）

「異分野融合」と「データ、ICT、ロボット、AIの看護への利活用」が博士後期課程設置のキーワードであるが、博士後期課程のカリキュラム構成では、これらに関する科目や指導方針への言及がなく、「異分野融合」や「データ、ICT、ロボット、AI」をどこで学ぶのか、それらをどのように研究に反映させるよう指導するのかなど、課程新設の持つ具体的新しさが見えなくなっている。融合科目に関する教員を準備することは難しいと思うが、「既存教員が協力して「異分野融合」を標榜する科目を立ち上げる」などの表現があるといいのではないか。

第106回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和6年3月18日（月）13:30～15:00

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者（※は Web にて出席）

（学外委員 5名） 川田達男、小松弥生※、笹田昌孝※、鈴木寛※、藤林康久

（学内委員 7名） 安田年博、末信一朗、松木健一、花島 信、大嶋勇成、
永井二郎、内木宏延

欠席者 荒瀬克己、伊藤正一、江守康昌、鷺頭美央、上田孝典

陪席者 峠岡監事、佐野監事、澁谷教育学部長、藤枝医学部長、明石工学部長、
岡崎国際地域学部長、木村連合教職開発研究科長、
月原国際地域マネジメント研究科長、窪田参与及び関係部課長等

冒頭、学長が欠席のため、理事（教育、評価担当）が代理として議長を務める旨案内があった。

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、12名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

2. 本学のトピックスについて

議題に先立ち、理事（教育、評価担当）から、席上配付資料に基づき以下の事項について報告があった。

- ・「ソニー幼児教育支援プログラム」2023年度保育実践論文最優秀園受賞について
- ・福井県科学学術大賞受賞について
- ・福井大学グローバル・エンゲージメント推進本部の設置について

3. 第104回及び第105回会議議事要旨の確認について

理事（教育、評価担当）から、第104回会議議事要旨及び第105回会議（書面審議）議事要旨について確認があり、了承された。

4. 審議事項

（1）福井大学グローバル・エンゲージメント推進本部の設置（案）について

副学長（国際担当）から、資料1に基づき、福井大学グローバル・エンゲージメント推進本部の設置（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

（2）福井大学学則等の一部改正（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料2に基づき、福井大学学則等の一部改正（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

- (3) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について
理事（総務・財務担当）から、資料3に基づき、国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について説明があり、審議の結果、了承された。
- (4) 福井大学外国人留学生規程の一部改正（案）について
副学長（国際担当）から、資料4に基づき、福井大学外国人留学生規程の一部改正（案）について説明があり、審議の結果、了承された。
- (5) 令和7年度施設整備費概算要求（案）について
理事（総務・財務担当）から、資料5に基づき、令和7年度施設整備費概算要求（案）について説明があり、審議の結果、了承された。
- (6) 令和6年度学内予算配分（案）について
理事（総務・財務担当）から、資料6に基づき、令和6年度学内予算配分（案）について説明があり、審議の結果、了承された。
- (7) 令和6年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請（案）について
理事（総務・財務担当）から、資料7に基づき、令和6年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請（案）について説明があり、審議の結果、了承された。
- (8) 令和4事業年度における余剰金の目的積立金化について
理事（総務・財務担当）から、資料8に基づき、令和4事業年度における余剰金の目的積立金化について説明があり、審議の結果、了承された。

5. 討議事項

- (1) 医学部附属病院の経営状況等について
副学長（医療担当）から、資料9に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

（○学外委員、□学内委員意見。以下同じ）

- 大学病院改革プランについて、民間企業の場合、改革プランの中心は生産性向上、効率化の推進、コスト削減等の改革が中心となる。民間と大学病院は、目的や考え方は違うが、できるだけ付加価値を上げる原理原則を中心に進める必要がある。
- 研修医の確保も課題だが、福井大学の一番の課題は何か。
- 研修医の確保やマンパワー不足が課題である。働き方改革に対応した診療科の機能を維持するための最低限必要な人数で、付加価値を含めて更なる生産性向上を目指す場合、更に人員を確保する必要がある。研修医の確保だけでは、即戦力にはならないため、人員をいかに増やすかが大きな課題である。また、現在、最も危惧するのは、次の診療報酬改定において、特定機能病院は、働き方改革を組み合わせることで診療報酬の加算が付く仕組みになっているため、マンパワーが潤沢な大きな大学病院であれば、恩恵があるが、当院のような規模の地方大学では、恩恵はあまりないと考える。

6. 報告・連絡・情報交換事項

(1) 令和6年度の運営体制について

理事（教育，評価担当）から、当日配付資料に基づき、令和6年度の運営体制について報告があった。

(2) 福井大学シニアフェロー制度実施規程の制定について

経営企画部長から、資料10に基づき、福井大学シニアフェロー制度実施規程の制定について報告があった。

—主な意見—

○ シニアフェロー制度を希望する教員について、希望を出すことができる期間等、定義を明確にした方が良い。また、他機関では、グローバルな業績を挙げた教員が、定年後地元に戻り、シニアフェローという身分で研究に参加している事例があるが、今回の制度は、あくまでも福井大学に勤めた教員を対象にしているが、それ以外の教員に付与できるように検討しているか。

□ 学外の教員にシニアフェローの称号を付与する制度は検討していない。今回の規程におけるシニアフェローの称号は、本学の役員又は退職した教員を想定している。

(3) 福井大学キャンパスマスタープラン2024の策定について

理事（総務・財務担当）から、資料11に基づき、福井大学キャンパスマスタープラン2024の策定について報告があった。

(4) 本学の取組みに関する最近の記事について

理事（教育，評価担当）から、資料12の記事について、案内があった。

7. その他

(1) その他

理事（教育，評価担当）から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

8. 閉会

理事（教育，評価担当）から謝辞が述べられ、次会開催日（6月17日（月））の案内があり、閉会した。